

令和7年度

二戸地域県立病院運営協議会

日 時 令和7年12月24日(水)

14:00～15:30

場 所 岩手県立二戸病院会議室(地階)

次 第

- 1 開会
- 2 委員及び職員紹介
- 3 会長、副会長の互選について
- 4 会長あいさつ
- 5 二戸病院長あいさつ
- 6 医療局長あいさつ
- 7 議事
 - (1) 県立病院の現状と課題について
 - (2) 二戸地域県立病院の運営状況等について
 - (3) その他

[別添資料]

二戸地域県立病院の業務状況等(運営協議会資料)

県立病院運営協議会等要綱

(協議会の設置)

第1条 二次保健医療圏内の県立の病院の円滑な運営を図り、もって地域住民の医療及び保健衛生の向上に寄与するため、別表に掲げる病院に県立病院運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について、協議会を置く病院の長（以下「病院長」という。）の諮問に応じ、又は建議することができる。

- (1) 二次保健医療圏内の県立の病院の円滑な運営に必要な事項
- (2) 保健衛生活動の協力に関する事項
- (3) その他病院長が必要と認める事項

(組織)

第3条 協議会は、原則として委員25人以内をもって組織する。

2 委員は、市町村、関係行政機関、社会保険団体、医療関係団体、社会福祉関係団体、学校、事業所、婦人団体青年団体等の代表者及び学識経験者のうちから医療局長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長1人を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会は、病院長が招集する。

2 会議は、定例会及び臨時会とし、定例会は年1回、臨時会は必要に応じて招集する。

3 会議は、必要に応じて他の協議会と合同で開催することができる。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、病院において処理する。

(地域懇談会)

第8条 県立の病院の運営に関し、地域住民から意見、提言等を得て病院運営上の参考とするため、病院に県立病院地域懇談会を置く。

2 県立病院地域懇談会の組織及び運営に関し必要な事項は、病院の長が定める。

附 則

この規程は、昭和46年4月12日から施行する。

この規程は、昭和57年1月16日から施行する。

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

この規程は、平成16年5月1日から施行する。

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

別表（第1条関係）

病 院
岩手県立中央病院
岩手県立宮古病院
岩手県立大船渡病院
岩手県立胆沢病院
岩手県立中部病院
岩手県立久慈病院
岩手県立磐井病院
岩手県立釜石病院
岩手県立二戸病院

二戸地域県立病院運営協議会 委員名簿

任期：令和9年3月31日まで

	区 分	職 名	氏 名	備 考
1	学識経験者	岩手県議会議員	田中 辰也	
2	市町村の代表者	二戸市長	藤原 淳	
3		一戸町長	小野寺 美登	
4		軽米町長	山本 賢一	
5		九戸村長	大久保 勝彦	
6		関係行政機関の代表者	県北広域振興局副局長	伊五澤 敬
7		二戸保健所長	小守林 靖一	
8	医療関係団体の代表者	二戸医師会会長	横森 浩道	
9	社会福祉関係団体の代表者	二戸市社会福祉協議会会長	山口 金男	
10		一戸町社会福祉協議会会長	大道 正樹	
11		軽米町社会福祉協議会会長	田名部 晴夫	
12		九戸村社会福祉協議会会長	日向 和彦	
13	婦人団体の代表者	金田一婦人会会長	佐藤 美沙子	
14		一戸町地域婦人団体協議会会長	三浦 和枝	
15		新岩手農業協同組合女性部北部支部軽米地区役員	永井 美保子	
16		二戸市商工会女性部部長	内沢 由美子	
17	その他	二戸市保健委員協議会会長	田口 ケイ子	
18		軽米町保健推進員協議会会長	佐藤 勝子	
19		九戸村保健推進員協議会会長	川畑 友和	
20		一般社団法人 カシオペア青年会議所理事長	新毛 真武	

二戸地域県立病院運営協議会委員席 配置表

議 長

二戸市社会福祉協議会会長
山口 金男 委員
一戸町社会福祉協議会会長
大道 正樹 委員
軽米町社会福祉協議会会長
田名部 晴夫 委員
九戸村社会福祉協議会会長
日向 和彦 委員
金田一婦人会会長
佐藤 美沙子 委員
一戸町地域婦人団体協議会会長
三浦 和枝 委員
新岩手農業協同組合女性部北部支部軽米地区役員
永井 美保子 委員
二戸市商工会女性部部长
内沢 由美子 委員

二戸市長
藤原 淳 委員
一戸町長
小野寺 美登 委員
軽米町長
山本 賢一 委員
九戸村長
大久保 勝彦 委員
軽米町保健推進員協議会会長
佐藤 勝子 委員
九戸村保健推進員協議会会長
川畑 友和 委員
県北広域振興局副局長
伊五澤 敬 委員
二戸保健所長
小守林 靖一 委員

傍聴・報道席

入口

医療局医事企画課 総括課長	医療局医師支援推進室 室長	医療局次長	二戸病院長	一戸病院長	軽米病院長
永山 光政	佐藤 竜太	宮 好和	小笠原 敏浩	佐々木 由佳	葛西 敏史

	医療局経営管理課 企画予算担当課長	二戸病院 事務局長	二戸病院 総看護師長	一戸病院 事務局長	一戸病院 総看護師長	軽米病院 事務局長	軽米病院 総看護師長
	作山 泰文	藤本 繁	清水 幸代	後藤利徳	東山 潤	青木康繁	加藤幸枝

二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 副院長	二戸病院 医事経営課長	二戸病院 総務課長	二戸病院 事務局次長
御供 真吾	柴田 俊秀	西山 理	小成 晋	高橋 浩	及川 浩	阿部 真吾	澤口博樹	西川 栄樹

令和7年度 岩手県立二戸病院事業運営方針

1 基本理念・運営の基本方針

岩手県立二戸病院は、二戸圏域（カシオペア連邦）の基幹病院として救急医療・周産期医療・高度医療に対応し、安心安全で質の高い医療を提供します。また、圏域の少ない医療資源のなかで、岩手県立一戸病院・岩手県立軽米病院・当院附属九戸診療センター・二戸医師会・福祉・行政機関と良好な連携と機能分担で地域に愛される病院を目指します。

基本理念	地域に愛され 地域と共に
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の患者さんに安全安心で質の高い医療を提供します。 2 カシオペア3病院と機能分担・連携して良質な医療を提供します。 3 地域の基幹病院として、救急医療と高度医療に対応します。 4 地域の医療、福祉、行政と連携して医療から介護へ暖かく支援します。 5 地域に愛される卓越した臨床研修医を育成します。 6 働きがいのある職場で地域に愛される職員を育成します。 7 これからも地域に愛される病院であるために収入確保と経費節減を推進し持続可能な経営に努めます。
行動指針	P H S Professional 専門性を活かす Hospitality おもてなしの精神 Sustainability 持続可能な組織

2 令和7年度事業運営方針

岩手県立二戸病院の事業方針は、「岩手県立病院等の経営計画〔2025-2030〕」に掲げる5つの基本方向に沿って、当院の機能及び役割を踏まえた方針及び重点取組事項を定めます。令和7年度事業運営方針については、「令和7年度岩手県立病院等事業運営方針」に基づき、良質な医療の持続的な提供に向けて、業務改善活動を積極的に推進し効率的な事業運営を目指します。

各部門が策定するBSC（部門業務運営方針）による取組は、本事業運営方針の方向性に沿って進められます。

「岩手県立病院等の経営計画〔2025-2030〕」における5つの基本方向

- 1 地域の医療需要の動向を踏まえた県立病院の機能分化と連携強化
- 2 良質な医療を提供できる環境の整備
- 3 職員の確保、育成と魅力ある勤務環境の整備
- 4 職員の適正配置
- 5 持続可能な経営基盤の確立

令和7年度 岩手県立二戸病院事業運営方針 《重点取組事項》

【令和7年度重点取組項目】

- (1) 健全な病院経営を目指します。
- (2) 救急医療の充実を図ります。
- (3) 圏域連携強化と諸問題の改善を図ります。
- (4) クリニカルパス使用率の向上を図ります。
- (5) ホスピタリティ精神の醸成を図ります。
- (6) 病院機能評価更新への準備に取り組みます。

1 県立病院間・他の医療機関及び介護施設等を含めた役割分担と地域連携の推進

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 県立病院群の一体的・効率的な運営	<p>① 圏域病院（一戸病院、軽米病院及び九戸地域診療センター）への支援の継続</p> <p>② 圏域3病院との連携強化</p> <p>③ 医療・介護・福祉との連携強化 ア 地域包括ケアネットワークへの参画 イ 地域医療福祉連携組織の強化</p> <p>④ 地域がん診療病院への移行に伴う地域がん診療連携拠点病院との連携体制の構築</p>	<p>①・診療応援（一戸、軽米及び九戸センター）</p> <p>・業務応援（薬剤、放射線、検査、栄養、臨床工学技士、医療社会事業士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療安全管理専門員）・相互応援（放射線、検査）、理学療法士、作業療法士</p> <p>②・3病院連携会議の開催（年2回）</p> <p>・圏域薬事委員会の開催（年4回）</p> <p>③</p> <p>イ・入退院支援の促進 入院時支援加算の拡大</p> <p>・カシオペア NET 活動協力</p> <p>④・拠点病院のレジメン審査委員会への出席</p>
(2) 各病院が担うべき役割と機能・病床機能適正化	<p>① 医療提供体制の改革への対応 地域医療構想の要請を踏まえた医療・福祉・介護の連携強化</p> <p>② 地域包括ケア病棟の適正な運用</p> <p>③ リハビリテーション広域支援センター事業の継続</p> <p>④ 災害拠点病院としての機能発揮</p> <p>⑤ 外来診療の運用改善</p> <p>⑥ 救急医療の充実</p>	<p>②患者の適正な選定</p> <p>③二戸圏域の介護予防事業、地域ケア会議等への参画</p> <p>④大規模災害を想定したトレーニングを含めた訓練の実施</p> <p>⑤・患者満足度の向上 ・紹介・逆紹介率の向上</p> <p>⑥・救急車応需率98%以上 ・圏域救急ネットワーク会議の開催</p>
(3) 他の医療機関・介護施設等との役割分担と連携	<p>① 医療・介護・福祉との連携強化【再掲】 ア 地域包括ケアネットワークへの参画 イ 地域医療福祉連携組織の強化</p>	
(4) 地域との協働による病院運営	<p>① 運営体制に関する地域の理解の促進と協働の推進 ア 広報活動の強化</p> <p>イ ボランティアの拡充</p> <p>ウ 「がんサロン」の周知及び活動の拡充</p> <p>② 地域の意見を病院運営に反映 ア 運営協議会の開催 イ モニター懇談会の開催</p>	<p>①</p> <p>ア・医療人材確保を目的とした病院公開事業の実施（職業選択の場の提供）</p> <p>・ホームページによる情報発信、地元メディア等の積極的活用</p> <p>・病院広報の定期発行</p> <p>イ 定期的な懇談会の開催及びボランティア部会による活動支援</p> <p>ウ がんサロンの相談体制の拡充（回数、曜日等）</p>

2 良質な医療を提供できる環境の整備

重点事項	展開方向	主な指標
<p>(1) 患者中心の安全・安心な医療の提供</p>	<p>① 医療の質の確保</p> <p>ア 病院機能評価更新に向けた体制の整備</p> <p>イ クリニカルパスの活用推進</p> <p>ウ リハビリテーション提供体制の強化</p> <p>エ 病棟薬剤業務の体制強化</p> <p>オ 地域がん診療連携拠点病院との連携体制の構築【再掲】</p> <p>カ 「がんサロン」の周知及び活動の拡充【再掲】</p> <p>キ 診療録管理体制の強化</p>	<p>①</p> <p>ア 各種委員会を中心とした指摘事項等の改善を継続</p> <p>イ・パス使用率 55%以上</p> <p>・クリニカルパスの分析と見直しの推進</p> <p>・栄養指導介入パス導入率 30.0%以上</p> <p>・薬剤指導介入パス導入率 50.0%以上</p> <p>ウ 365日全処方対応 95%</p> <p>エ 病棟薬剤業務の維持</p> <p>キ 診療録の量的・質的監査の取組の継続</p>
	<p>② 医療安全対策の推進・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像診断レポートの見落とし防止対策の継続 ・病理レポート見落とし防止対策の継続 ・医療安全教育の充実 ・インシデントレポートの促進：0レベル報告、医師の報告 ・患者誤認防止対策の強化 ・防犯・暴力対策の強化 	<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インシデントレポート0レベル報告率 40%以上 ・患者誤認件数 12件以下 ・誤薬率 1.1%以下 ・3a以上の誤薬率 0% ・転倒転落率 1.9%以下 ・3a以上の転倒転落率 0.1%以下 ・医師の報告率 5%以上 (研修医からの報告 2件/人) ・部門毎業務改善計画書の評価 B以上の割合 75%以上
	<p>③ 感染防止対策の推進・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多剤耐性菌の発生と伝播を抑える ・抗菌薬の適正使用を推進する ・医療関連感染症を抑える ・職業感染を防止する ・感染対策の地域支援 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・%MRSA30%以下を維持 ・手指消毒薬使用量 17ml/1入院患者1日あたり ・抗菌薬使用前の培養検査提出率 80%以上 ・JANISデータの平均値以下 ・エピネット平均事例数の95%信頼区間下限値以下 ・支援回数 10回
	<p>④ 患者満足度の向上</p>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者満足度調査の基本的な接し方「不満・やや不満」の割合 2.0%以下 ・患者満足度調査のインフォームド・コンセント「不満・やや不満」の割合 3.0%以下 ・退院時アンケート「そうだ」「ややそうだ」の割合 95%以上
	<p>⑤ 倫理に関わる体制の強化</p>	<p>⑤倫理委員会の隔月開催</p>

(2) 医療現場のデジタル化の推進	① 電子カルテの機能向上及び診療情報統合システムの運用 ② 電子カルテの運用体制強化、診療科間の情報共有の効率化	① 電子カルテの円滑な運用 ② 外来全診療科の共用開始(残り非常勤1診療科)
-------------------	---	---

3 医師不足解消に向けた医師の育成・確保と医師の負担低減に向けた取組の推進

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 医師の育成・確保に向けた取組	① 臨床研修医の確保	① 研修医確保率対定員60%以上
(2) 魅力ある勤務環境への改善	① 医師の業務負担の軽減 ア 各職域の人材育成方針に沿った認定専門資格の取得の支援 イ 医療クラークの質的向上の取組 ウ 臨床工学技士の業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修の受講 ② 女性医師支援のための総合的な施策 女性医室の確保及び育児支援制度の活用推進	ア 特定行為に係る看護師、認定看護師、NP、認定薬剤師、認定診療放射線技師、認定検査技師、認定管理栄養士、呼吸療法認定士、認定医療機器管理関連臨床工学技士、認定血液浄化関連臨床工学技士、手術関連専門臨床工学技士等の養成 イ 現員クラークの質的向上のための定期的研修への参加 ウ 告示研修の受講者数の把握 ② 独立した室(医局、更衣室、休憩室)の確保

4 職員の資質向上と患者数の動向や新規・上位施設基準の算定を踏まえた人員の適正配置

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 人材の確保・育成	① 計画的な人材育成 ア 圏域内での相互業務応援体制の継続 イ 各職域における人材育成計画や業務運営方針に基づく育成への支援【再掲】	
(2) 働きやすい職場環境	① 職員満足度の向上 ② 選択可能な多様な勤務形態 ③ 業務の見直しと職員の意識改革の推進 ④ 職員の健康サポート	① ・ハラスメント対策の啓発・研修会への参加 超過勤務縮減の取組 ② 時差出勤の取組 ③ タスクシフティング・タスクシェアリング等の取組 ④ 職員定期健康診断等の実施とフォロー、メンタルヘルスケアの取組
(3) 職員の適正配置	① 医療技術部門の充実	① ・病棟薬剤業務の継続 ・土日・祝日リハビリテーションの強化継続(土日祝6名以上名配置)

5 持続可能な経営基盤の確立

重点事項	展開方向	主な指標
(1) 病院マネジメント	① 経営企画機能の強化 ② 病院マネジメントの推進	① ・地域包括ケア病棟の有効的な運用 ・SPDデータ活用、ベンチマークによる経営分析及び改善活動の推進 ② 幹部職員の経営マネジメント研修派遣
(2) 適正収支に向けた取組	① 収益の確保 ア 新入院患者の確保及び診療単価の増 イ DPCベンチマーク分析 ウ クリニカルパスの活用推進【再掲】 エ 指導料算定の強化 オ SPDデータ活用による評価と改善 カ 請求精度の向上 キ 特別室の利用推進 ク 公衆衛生活動の継続実施 ケ 特別食加算率の向上 ② 費用の効率的執行 ア 超過勤務縮減の取組 イ 材料費の抑制 ・後発医薬品の使用拡充 ・SPDデータを活用した同種同効品の整理統一 ウ 経費の節減 エコマネジメントシステムに基づく取組 ③ 個人未収金の縮減 病院全体での発生防止対策、回収の取組強化、回収不能債権の整理	① ア ・入院診療単価 50,000 円 ・外来診療単価 13,500 円 ・新規、上位施設基準の早期算定に向けた院内体制の整備 ・病床利用率 73.2%(一般 74.3%、地域包括ケア病棟 70.2%) イ ・コーディング精度の向上及び係数引上げの取組 ・経営改善活動の推進 エ ・算定可能項目の洗い出しと情報提供 ・栄養指導の拡充、入院継続栄養指導率 20%以上 オ 費用との突合による収益確保の取組 カ 委託業者との合同検討会の継続 キ 特別室利用率 65.0%以上 ケ 加算率 46%以上 イ ・後発医薬品の使用拡充 90.0%以上 ・バイオシミラー導入推進 ・薬品費対医業収益比率 17.0%以下 ・資産減耗費対薬品購入額 0.25%以下 ・診療材料等検討委員会による取組推進 ・診療材料費対医業収益比率 9.5%以下 ウ ・光熱水費削減の取組みの強化 ・医療用廃棄物、一般廃棄物の分別の徹底 ③ 過年度個人未収金残高対前年度比 △5.0%減

令和7年度岩手県立二戸病院附属九戸地域診療センター事業運営方針

理念

地域に愛され 地域とともに

基本方針

- 1) 地域の患者さんに愛されて安心安全な医療を提供します。
- 2) 県立二戸病院・県立一戸病院・県立軽米病院と連携して必要な医療を提供します。
- 3) 九戸村唯一の診療センターとして、地域住民の健康を守ります。
- 4) 医療、福祉、行政と連携して医療から介護へ暖かく支援します。
- 5) 働きがいのある職場で地域に愛される職員を育成します。

行動指針

PHS

Peace of mind やすらぎ

Hospitality おもてなし

Satisfaction (customer satisfaction employee satisfaction) 患者満足 職員満足

令和6年度事業運営方針

<事業分野>基本方針に基づく

<事業分野別の取組方針・重点事業等>

- 1) 地域の患者さんに愛されて安心安全な医療を提供します。

<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●患者中心の安全、安心な医療の提供 ●機能に応じた役割分担と連携の推進 	<p>【主な指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆患者満足度（不満足度5%以下） （基本的な接し方、インフォームドコンセント）
重点事業	事業内容、展開方法等
<ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全対策の推進 2 役割分担と連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①マニュアル（医療安全・院内感染防止）に基づく医療安全対策の実施 ①地域診療センターとしての機能及び運営体制の確立（プライマリーケア、一次救急、訪問診療及び保健・福祉との連携） ②本院を中心に、圏域内医療機関との一層の連携推進 ③村等の関係機関、住民に対する診療所機能の周知及び協力関係の構築

2) 県立二戸病院・県立一戸病院・県立軽米病院と連携して必要な医療を提供します。

【ねらい】 ●医師の確保	【主な指標】 ◆医師配置数（常勤2名及び常勤換算3名以上）
重点事業	事業内容、展開方法等
1 診療応援の確保	①県立二戸・一戸・軽米病院からの診療応援継続
2 常勤医師確保	①村とも連携した情報収集の取組強化等

3) 九戸村唯一の診療センターとして、地域住民の健康を守ります。

【ねらい】 ●効率的な診療所運営	【主な指標】 ◆一日平均患者数（外来 41人） ◆経常収支（収支均衡を目指す）
重点事業	事業内容、展開方法等
1 組織の効率的運営	①本院との一体的運営体制の定着（診療機能・業務分担明確化と連携強化） ②各種会議等における本院との連携
2 収入の確保	①診療報酬の適正算定（関係部門との情報共有とレセプト精度管理の継続） ②各種保健事業の継続実施（村内における予防接種等保健事業、学校医など）
3 費用の抑制	①医療材料等の効率的選択と適正定数管理
4 未収金の縮減	①新たな未収金発生防止と計画的回収等の促進

4) 医療、福祉、行政と連携して医療から介護へ暖かく支援します。

【ねらい】 ●行政（保健）・福祉との連携 ●地域への密着	【主な指標】 ◆行政機関、福祉機関との維持確保
重点事業	事業内容、展開方法等
1 行政（保健）福祉との連携強化	①中学校・高等学校の学校医、出稼ぎ者検診、予防接種等保健事業への貢献 ②特別養護老人ホームの嘱託医・産業医、訪問看護ステーション及び介護保健事業等福祉事業への貢献 ③医療・保健・福祉の相互の連携強化（九戸村地域ケア会議、サービス担当者会議への参加など）
2 地域、住民との密着	①センター2階に設置された地域密着型特別養護老人ホームとの定期（連絡）会議を通じた施設（地域）イベント情報等の共有

5) 働きがいのある職場で地域に愛される職員を育成します。

【ねらい】 ●職員の資質と満足度の向上	【主な指標】 ◆職員満足度
重点事業	事業内容、展開方法等
1 職員研修への参加	①本院で開催する研修会への参加
2 自己研修の奨励	②学習意欲の継続

令和7年度 一戸病院事業運営方針重点取組事項

＜地域の医療需要の動向を踏まえた県立病院の機能分化と連携強化＞

- ◇ 圏域内県立病院間の役割分担と医療・介護・福祉関係機関との連携強化
- ◇ 精神科救急医療体制の充実（病院群輪番施設から常時対応施設へ変更）
- ◇ 大規模災害等に対応するチーム医療体制の整備（DPAT体制の整備等）
- ◇ 中山の園移転整備に向けた関係機関との連携の推進

＜良質な医療を提供できる環境の整備＞

- ◇ 新設する訪問看護ステーションの安定的な運営
- ◇ 認知症疾患医療の持続的な充実・推進
- ◇ 医療現場のデジタル化への適応力向上とオンライン診療等の拡充

＜職員の確保、育成と魅力ある勤務環境の整備＞

- ◇ 中堅層医師及び精神保健指定医の確保
- ◇ 多職種連携によるタスクシフト・タスクシェアの推進
- ◇ 働き方改革を踏まえた労働環境改善の継続実施
- ◇ ハラスメントを起こさないより良い組織風土の構築
- ◇ 教育機関との連携による将来における人材育成への参画

＜持続可能な経営基盤の確立＞

- ◇ 地域の医療・介護・福祉関係機関との連携強化による入院患者の積極的な受け入れ
（年間平均入院患者数 145 人を目標とする）
- ◇ 現状の医療資源に対応する最適な施設基準の取得と費用の抑制

〔令和7年度重点取組事項〕

一戸病院

取組事項	目標達成のための具体的な取組内容（展開方向）	前年度実績	目標数値等
＜地域の医療需要の動向を踏まえた県立病院の機能分化と連携強化＞			
◆ 圏域内県立病院間の役割分担と医療・介護・福祉関係機関との連携強化			
地域との連携強化	地域連携室や地域医療支援室との連携による入退院対応の強化	訪問看護11,326件/年	前年度比増
薬薬連携の強化	退院時薬剤情報連携加算の充実	9件	10件
検査試薬・消耗品等のコストを考えた運用	他院と共有している定期品目等の共同運用ならびに検証をおこなう。	検証の仕方に問題あり。	検証用紙を作成し、毎月検証を行う。
圏域病院間の業務支援体制強化	二戸病院より日常業務応援の実施（定数減による日常業務に対する支援）	なし	毎月交代で実施
	二戸圏域病院間の交流応援実施	交流7回、業務応援（二戸へ）6回	交流9回 業務応援随時対応
栄養連携の強化	栄養管理情報提供書の作成、ケア会議への参加	81件/年	前年比増
栄養連携の推進	一戸町自立支援型地域ケア個別会議への参加	10回/年	10回/年以上
基幹病院との業務応援態勢の構築	長期休暇取得に備えた応援態勢の構築	なし	長期休暇取得に応じて計画
二戸地域リハビリテーション広域支援センター事業への協力	二戸病院と連携し地域事業へ協力を行う	連絡協議会、研修会へ参加	連絡協議会、研修会へ参加への参加を1回以上
◇ 精神科救急医療体制の充実（病院輪番施設から常時対応施設へ変更）			
緊急入院やレスパイト入院受け入れの強化	効率的なベッドコントロール		レスパイト入院数
薬剤科救急体制の継続	待機体制継続	平日：待機 休日：日直・待機	平日：待機 休日：半日直・待機
週末・祝祭日等の日勤待機体制の実施	技師3名で対応をおこなう。	余剰人員も含め夜間待機も実施	無理のない体制で日勤待機対応
土日祝日 待機対応実施	一戸、二戸技師が交代で対応	なし	当番制で対応
◆ 大規模災害等に対応するチーム医療体制の整備（DPAT体制の整備等）			
防災意識の向上	DMAT・DPATの育成 定期訓練の実施	災害支援ナース4名研修参加	実績値
防災体制の整備	適正な災害備蓄薬品の設定・管理	1回（品目の見直し）	1回（品目の見直し・更新）
災害時における体制確保	BCPに対応した災害訓練とアクションカードの活用訓練	1回	1回/年以上
防災体制の整備	科内BCPの確認、見直し	1回/年	1回/年
防災体制の整備	BCPの整理	なし	年1回
訓練計画の策定	防災訓練の他に災害対応訓練の実施を計画する	なし	年2回
◇ 中山の園移転整備に向けた関係機関との連携推進			
円滑な院外処方発行の協力	二戸薬剤師会への情報提供と調剤薬局との情報共有	(-)	薬剤師会役員会参加（年2回）し情報共有

〔令和7年度重点取組事項〕

一戸病院

取組事項	目標達成のための具体的な取組内容（展開方向）	前年度実績	目標数値等
準備会議等への参加	必要に応じて関連する事項について検討していく	なし	必要時
＜良質な医療を提供できる環境の整備＞			
◇ 新設する訪問看護ステーションの安定的な運営			
	各種書式の完成や必要なハード面の補充		実績値
	医事課や在宅医療運営委員会等での討議を重ね、利用者のニーズに応じた対応の実施		実績値
薬剤関連の相談応需	調剤薬局による訪問薬剤指導未実施患者の薬剤管理に関する相談応需	(-)	必要時対応
	二戸薬剤師会への情報提供と調剤薬局との情報共有	訪問薬剤指導実施可能薬局の情報更新(薬剤師会へ依頼中)	訪問薬剤指導実施可能薬局の情報更新(とりまとめて情報提示)
看護部門との連携強化	現在、心電図検査にて運用。他の検査要望があった場合は対応を検討	年度後期に、数件の心電図検査対応	別項目検査の依頼時には、対応検討
訪問看護部門との連携強化	訪問ポータブルX線撮影の安定運用(100%対応)	延べ件数30件	依頼100パーセント対応
訪問看護への協力	リハ職への訪問依頼があったときに訪問へ同行	5回程度	依頼に対し100%
システム等の導入検討	業務負担軽減を図るためシステム等の導入を検討する。	なし	システム施行
新規患者の確保	関係機関への訪問・PRにより新規患者を確保する		年間25人
◇ 認知症疾患医療の持続的な充実・推進			
	認知症研修会の実施		
	わく夢使用者数の維持と5病棟病床利用率の増加	わく夢2,378名/年	前年度比増
認知症病棟への関与	5病棟に主担当を配置し病棟との相互連携強化	主担当なし	4月から主担当配置
認知症検査対応	MMSE依頼があれば、対応	年数件の依頼数	依頼100%対応
認知症検査実施	MRIでのVSRAD検査実施	役250件	検査件数10パーセント増
精神疾患及び認知症疾患支援の充実	家族教室講師依頼への対応	2件/年	2件/年
在宅訪問栄養指導の推進	在宅患者訪問栄養管理指導の実施	13件/年(うち算定3件)	前年比増
認知症患者への安定したリハビリの提供と質の向上	プログラム充実のため研修会へ参加	各種研修会への参加	一人年1回以上
わく夢やMCIの充実	利用者アップにつなげるよう啓蒙活動の実施	なし	年1回
◇ 医療現場のデジタル化への適応力向上とオンライン診療等の拡充			
電子処方箋発行への協力	電子処方箋に係るマスタ整備	1回実施	適宜不具合に対応
更新システムの対応をスムーズに行う。 (検体検査システム・生理検査システム)	今年度システム更新もあり、報告遅延等が生じないよう対応		報告遅延0件を目指す。

〔令和7年度重点取組事項〕

一戸病院

取組事項	目標達成のための具体的な取組内容（展開方向）	前年度実績	目標数値等
部門システム更新時導入機器	オンライン検査予約システムの導入	なし	一戸町内開業医100パーセント参加
	胸部XpへAI技術導入	なし	トック健康診断にも導入し読影補助
			を行う。
＜職員の確保、育成と魅力ある勤務環境の整備＞			
◇ 中堅層医師及び精神保険指定医の確保			
PBPMの活用と支援	プロトコールに基づく定期処方代行入力の推進	30%	50%
	プロトコールに基づく頓服処方代行入力の継続	80%	90%
◇ 多職種連携によるタスクシフト・タスクシェアの推進			
	特定行為修了者のタイムリーな介入と実践	3区分/120件/60時間	前年度比増
タスクシフティングの推進	プロトコールに基づく薬物治療管理(PBPM)の活用	4プロトコールの継続	4プロトコールの継続
新規項目の実施	新規項目として、下肢静脈エコー等の実施	数件対応	対応に定める。
	現在BNPを新規項目としての対応を目指す。		
読影補助の推進	緊急画像チェックシート活用(画像チェックトレーニング実施)	随時実施	随時実施
医療被ばく情報の共有	衛生委員会への個人線量等の報告	毎月報告	毎月報告
タスクシフトの推進	オーダーの代行登録	1187件/年	1200件/年
タスクシフトの推進	リハビリテーションに係る患者への実施計画書の作成や説明等の業務の実施	337件(一般・精神)	リハオーダー数
◇ 働き方改革を踏まえた労働環境改善の継続実施			
	主任看護師会や病院効率・活性化委員会を中心とした業務改善		実績値
	2交代12時間勤務の推進	12時間勤務実施者数37名	前年度比増
ノー残業デーの徹底	毎週水曜日のノー残業デー実施継続	95%	95%
WLBの確保	ワークライフバランスシート活用(働きやすい職場環境の構築)	利用希望職員 100%	利用希望職員数 100%
育児・介護支援	育児・介護支援計画の作成	計画作成数 100%	計画作成数/対象者数 100%
業務習熟度の向上	キャリア開発ガイドラインの活用とチェックシートの活用	実施	評価実施数/評価対象者数 100%
ワークライフバランスの推進	定時退庁の実施 職員1人1回/週	実施	継続
休暇取得への支援体制の構築	育児休暇・看護休暇・介護休暇等取得しやすい体制をとる	希望に応じて取得できている	希望に応じて取得
超過勤務の縮減	適切な業務分担等で超過勤務の縮減を図る	974時間	700時間
◇ ハラスメントを起こさないより良い組織風土の構築			
	話しやすい環境作りやピアメンタルサポートの活用	相談件数4件	実績値

〔令和7年度重点取組事項〕

一戸病院

取組事項	目標達成のための具体的な取組内容（展開方向）	前年度実績	目標数値等
ハラスメント関連研修会参加	医療局、病院研修会配信聴講・受講。未受講のスタッフには情報共有。	全員院内研修会受講	全員受講
ハラスメント対応の周知	院内ハラスメント対応マニュアルの読み合わせと相談窓口の周知	(-)	年度初実施
研修会等の参加を目指す。		50%	出来るだけ、参加する。
ハラスメント防止研修会への参加			参加率100パーセント
風通しのよい職場環境を目指す	定期的にミーティングを実施	開催2回	前期後期2回開催
ハラスメント防止対策の推進	ハラスメントまたはメンタルヘルス研修会の参加	100%	100%
ハラスメント防止対策の推進	研修会への参加、勉強会の実施	なし	年1回以上
◆ 教育機関との連携による将来における人材育成への参画			
	看護実習指導者講習会や各種研修会への参加	看護実習指導者講習会1名参加	看護実習指導者講習会1名参加
新採用薬剤師等の育成の充実	新採用薬剤師等の実務実習受入	0名(圏域内に新採用者なし)	他圏域からの要望があれば対応
職場体験の実施	検査科各分野の紹介	2回実施	要請時に対応
技師養成校(中高生)への情報提供	病院HPの更新・情報提供	HP更新1回	1件/年以上
中高生の病院見学受け入れ	放射線技術の紹介	2回実施	1件/年以上
管理栄養士職員の確保	管理栄養士養成校実習生受け入れ	1件/年	1件/年
	高校生職場体験受け入れ	2件/年	2件/年
中学・高校生の職場体験・見学の受け入れ	希望に応じて受け入れ	受け入れ100%	100%
< 持続可能な経営基盤の確立 >			
◇ 地域の医療・介護・福祉関係機関との連携強化による入院患者の積極的な受け入れ(年間平均入院患者数145人を目標とする)			
年間入院平均患者数145人	持続可能な経営基盤の確率のため、令和6年度下半期並の患者数を確保するとともに、1病棟(一般、包括)の適切なベッドコントロールにより単価増を図る。	一般病床 1日平均 14.35人 包括病床 " 5.45人 5病棟(認知) " 31.66人	一般病床 1日平均 18人 包括病床 " 7人 5病棟(認知) " 32人
	・当院を協力医療機関としている介護施設等からの急変時受け入れ	6病棟(精神) " 45.14人	6病棟(精神) " 44人
	・精神科救急常時対応による精神救急患者受け入れ増	7病棟(精神) " 46.12人	7病棟(精神) " 44人
	・レスパイト入院受け入れ強化	年間 1日平均 142.72人	年間 1日平均 145人
入院単価増	・訪問看護による患者状態の把握と入院受け入れ連携	1人1日当たり 18,562円	1人1日当たり 18,735円
訪問看護新規患者の確保(再掲)	関係機関への訪問・PRにより新規患者を確保する		年間25人
(再掲)薬薬連携の強化	退院時薬剤情報連携加算の充実	9件	10件
◆ 現状の医療資源に対応する最適な施設基準の取得と費用の抑制			
	今日推奨品の使用と定数の見直し		実績値

〔令和7年度重点取組事項〕

一戸病院

取組事項	目標達成のための具体的な取組内容（展開方向）	前年度実績	目標数値等
後発医薬品切替促進と適正な在庫管理	後発医薬品使用体制加算1の維持	12ヵ月維持	12ヵ月維持
外部医療機関からの検査要請時の際は対応	開業医からの検査依頼の受け入れ	主にEEG依頼 100%	依頼時は、即対応を目指す。
CT、MRI等（高額医療器械）の有効利用促進	開業医からの検査依頼の受入れ	CT664件、MRI37件 合計701件	昨年度比5%増
給食業務委託の検証	県立病院の評価表に基づく給食業務委託の評価の実施	R7評価内容見直しあり	実績値
給食材料費の適正使用	献立・調理・食材管理の適正化	388円/人/食	356円/人/食
リハが関係する施設基準の維持	現状維持	100%	100%
(その他の取組事項)			

令和7年度 軽米病院事業運営方針

令和7年4月1日 現在

【基本理念】

私たちは、地域に根ざした医療の実践と地域の保健・福祉との連携により、住民に信頼され親しまれる病院、地域づくりに貢献する病院を目指します。

【基本方針】

- 1 私たちは、少子高齢化社会に対応しながら、地域の一次・二次医療と県北における慢性期医療の提供に努めます。
- 2 私たちは、全ての患者の権利と尊厳を尊重し、安全で安心な医療に努めます。
- 3 私たちは、圏域の諸機関との連携のもとに、医療・保健・福祉が一体となった活動を展開するとともに、地域住民の健康の維持・増進に努めます。
- 4 私たちは、健全経営と効率的で良質な医療の提供に努めます。

【事業運営方針】

区分	項目	展開方法	評価指標	目標値等
最重点1	経営改善の取組	医療局事業運営方針における目標値の達成【新規】	1日平均入院患者数	73人
最重点2	病院機能評価の更新受審	更新審査に向けて体制準備・受審(R8.9)【新規】	キックオフミーティングの開催	令和7年9月

分野	重点事項	展開方法	評価指標	目標値等
I 地域の医療需要の動向を踏まえた機能分化と連携強化				
1 機能分化と連携強化				
(1)	診療応援体制の充実及び機能強化	①内科、循環器内科、精神科、脳神経内科及び外科（月2回）の応援診療継続 ②医師充足率100%の維持	応援回数 医師充足率	各科必要に応じた応援の継続 100%以上
(2)	専門外来の充実	①糖尿病外来 ②看護の専門性の発揮	実施回数 糖尿病患者・慢性疾患療養指導への指導件数	第1、第3金曜日 実態把握
(3)	救急患者の積極的受入	①救急患者を断らない方針の徹底 ②救急車搬送患者の積極的受入	受入実績 搬送率	100%受入 搬送率前年度以上
(4)	地域病院としてのサービスの展開	①訪問診療の継続 ②退院前後訪問の推進	訪問実績 訪問実績	月3回～4回 前年度以上
2 医療機関・介護施設等との役割分担と連携				
(1)	診療連携の促進	①三役による近隣病院訪問【新規】 ②地域医療福祉連携室の役割の明確化による連携強化 ③近隣介護施設等との連携協定の締結【新規】 ④行政、介護施設・福祉施設との連携（保健医療福祉連絡会・地域ケア会議への参加）	活動実績 活動実績 活動実績 開催回数	R6訪問病院の再訪 広報の発行等連携施設訪問等 軽米町内施設との協定締結カンファレンス開催 隔月1回開催
(2)	近隣市町村との連携	①地域における医療・保健・福祉の実現（軽米町、九戸村） ②軽米町健康ふれあいセンター（隣接）との連携強化	開催回数 応援回数	毎月定例会による連携 看連携強化
3 地域との協働による病院運営				
(1)	健康教室の開催	①生活習慣病教室 ②小児健康教室「にこにこ教室」（対象：小学4年生、中学生） ③高校生に対する糖尿病対策講演会（岩手県医師会事業に協力）	開催回数 開催回数 開催回数	年6回 各校1回 県北10高校
(2)	病院機能の明確化	各種会議、地域懇談会等を利用したの情報発信	活動実績	随時
(3)	ホームページの充実	ホームページ内容の定期更新と積極的な情報発信	定期更新	定期及び必要項目の更新
(4)	広報誌の発行	あしなみ（院内報） あかしや（院外報）	発行回数 発行回数	年1回 年1回

分野	重点事項	展開方法	評価指標	目標値等
(5)	地域交流の推進	①町の健康推進事業への積極的な参加	開催実績	年17回
		②ふれあい看護体験の開催	開催実績	年1回(5月)2日間
		③地域住民を対象とした介護教室の開催	開催実績	年2回
(6)	地域ボランティアの積極的受入	構内、院内環境ボランティアの受入及び育成	開催実績	構内環境年2回、随時
(7)	地域とのふれあい	①地域イベントへの積極的参加	参加実績	参加継続
II 良質な医療を提供できる環境の整備				
1 患者中心の安全安心な医療の提供				
(1)	医療安全対策委員会活動	①委員会毎月開催、研修会2回以上開催	開催回数	委員会毎月 研修会年2回以上
		②医療安全管理チーム会議の定期開催	開催頻度	月1回
		③インシデントレポートの分析及び対策	実施実績	発生の都度
		④画像診断報告書等の見落とし防止するためのシステムの運用	確認回数	月1回
		⑤診療に係る情報を確実に伝達・確認する体制等の構築	確認回数	随時
(2)	医療事故防止	①諸行為前後の安全確認の励行(レベル3以上)	発生実績	無事故目標
		②針刺し事故防止の徹底	発生実績	0件
(3)	患者満足度の向上	①患者満足度調査の実施及び分析(基本的な接し方)	「基本的な接し方」の満足度調査結果	対前年度以下 不満1.0%以下 満足75.5%以上
		②面会予約の運用による患者サービスの維持・向上	利用件数	安定運用
		③マイナンバーカード保険証利用に向けたオンライン資格確認システムの活用	利用件数	安定運用
(4)	心のかよう接遇	接遇研修の開催	開催回数	年1回
2 医療の質の向上				
(1)	看護の質の向上	看護師の役割発揮と評価	退院時アンケートの結果	満足・やや満足 95%以上
(2)	委員会活動	①計画的な委員会開催と開催状況管理	開催実績	随時
		②30分以内会議の推進(資料の事前配付による効率化)	開催実績	随時
(3)	クリニカルパスの推進	クリニカルパス委員会による新規パスの作成との見直し	作成数及び適用率	新規2、適用率20%以上
(4)	インフォームドコンセントの徹底	患者満足度調査等で評価	「インフォームドコンセント」の満足度調査結果	不満1.0%以下 満足80.0%以上
(5)	NST活動の実践	活動目標を設定し実践(ラウンドの実施)	アンケート実績	週1回
(6)	大規模災害等防災体制の整備	BCPに基づく研修・訓練等の実施	実績及び見直し	年1回
(7)	病院機能評価	更新審査に向けた準備(R8.9)	B評価の改善	B評価【課題と思われる点】の改善
3 各部門目標				
(1)	薬剤業務	①薬剤管理指導(指導料1、2)の推進	年間指導件数	300件(包括含)
		②退院時薬剤情報管理指導料	年間指導件数	70件
		③入院患者持参薬の確認	確認患者数	入院時全患者対応
(2)	放射線業務	①読影補助の推進(異常所見発見時速やかに報告)	報告件数	年間120件
(3)	検査業務	①検査材料・消耗品等の見直しによるコスト削減	確認回数	年2回
		②日医サーベイ:評価項目修正点96.5点以上、D評価ゼロ 日臨技サーベイ:A+B評価98%以上、分析項目D評価ゼロ	評価項目修正点 A+B評価	96.5点以上 98%以上
(4)	リハビリ業務	①退院時リハビリテーション指導料	年間指導件数	45件
		②土曜日・祝日勤務の継続	勤務日数	1人/土曜、1人以上/祝日の勤務継続
		③二戸地域リハビリテーション広域支援センター事業に協力し、軽米地域における支援事業に関わっていく	実施実績	随時参加
(5)	栄養管理室業務	①栄養指導の拡大(継続指導の推進)(局方針BSC)	年間指導件数	入院370件/年 外来780件/年
		②特別メニュー(1食100円)、行事食(減塩、食財の日等)提供による食事満足度の向上	食事満足度調査結果	満足率40%以上

分野	重点事項	展開方法	評価指標	目標値等
Ⅲ 職員の確保、育成と魅力ある勤務環境の整備				
1 職員の育成				
(1) 職員の資質の向上	①職場研修の実施		開催実績	計画的実施
	②外部研修生の積極的な受入（医学生、看護学生、管理栄養士等）		受入実績	随時
	③糖尿病療養指導士等専門資格者の活動強化		活動実績	生活習慣病教室開催（計6回） 透析予防指導 30件以上/年 フットケア 60件以上/年 小児健康教室年4回
	⑤認知症看護認定看護師の活動強化		活動実績	認知症ケアカンファレンス 40回以上/年 認知症ケア関連研修会 3回以上/年
	⑥慢性疾患看護専門看護師の活動強化		活動実績	地域での啓発活動 1回以上/年 症例検討会 1回以上/年 慢性疾患生活指導30件以上/年 看護の質向上に向けた 研修会開催 1回以上/年 倫理研修会年1回
	⑦地域につながる看護実践に向けた連携施設での体験研修		実施実績	受講者数
	⑧育成面接の活用		実施実績	年3回
	(2) コンプライアンスの推進	①コンプライアンス確立の日（運営連絡会議と同）継続実施		実施実績
	②医療局内部統制に係る自己点検の実施		実施実績	年2回
(3) 心肺蘇生法(BLS)の習得	BLS受講による指導者育成と院内講習会全職員受講		受講実績	1名、講習会年1回
2 魅力ある勤務環境の整備				
(1) 医師及び看護師の勤務環境の改善	①負担軽減推進委員会による関係職種との役割分担の検討及び実績評価		実施内容	委員会による実施評価
	②医療クラークの体制強化による医師の外来業務等の支援		時間外労働	短縮
(2) 業務改善運動	①認め合い、讃えあう職場風土づくり。ちよこっと改善発表会の継続		発表数	9件
	②RPA（パソコン事務作業のソフトウェア等技術利用による自動化）やAIのほか、補助器具等の利活用による業務効率の向上【修正】		実施実績	導入・利活用の検討、試験導入
(3) 職員のメンタルヘルス支援	産業カウンセラーによるカウンセリングの実施【新規】		実施実績	新採用・転入者は全員対象及び希望者
(4) 職員満足度の向上	①職員満足度調査の実施と結果による各部門で取組みの実施		各部門	全部門
	②年次休暇管理簿の活用による年次休暇の取得促進		管理簿の活用	全員
	③ハラスメントの防止等に関する基本方針に基づく各種取組みの推進		実施実績	セミナー参加 委員会開催年2回
Ⅳ 職員の適正配置				
1 業務応援の充実強化				
(1) 業務応援の充実と強化	①二戸・一戸・久慈病院からの薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、言語聴覚士、医療社会事業士、皮膚・排泄ケア認定看護師、医療安全管理専門員の業務応援（待機応援含む）		応援実績	薬剤科 ・出張や年次等業務応援継続 放射線技術科 ・出張や年次等業務応援継続 ・定期的交流研修の実施（1回/月） ・待機応援継続 臨床検査科 ・定期的交流研修の実施（1回/月） ・待機応援実施 上記以外は定期応援
	②感染管理認定看護師による業務応援			応援回数 必要に応じた応援の実施
	②他病院への業務応援（放射線、検査、看護等）		応援実績	応援回数 必要に応じた応援の実施

分野	重点事項	展開方法	評価指標	目標値等
V 持続可能な経営基盤の確立				
1 収益の確保				
(1)	効率的な病院運営	①経営企画機能の発揮（診療報酬制度に係る研修会開催）	開催回数	年2回以上
		②常に上位の施設基準を見据えた意識と対処	検討状況	各基準適合状況毎月確認と上位取得の検討実施
		③地域包括ケア病床の円滑な運用 診療報酬改定に伴う施設基準要件を満たすための対応	基準適合	緊急入院3ヶ月9人以上、在宅復帰率72.5%以上
		④療養病棟入院料2の施設基準の維持と円滑な運用	算定開始	利用率60%以上
(2)	患者数の確保	①入院患者の確保		73人(74.5%)
		・急性期病床（病床利用率）	1日平均患者数	25人(78.1%)
		・地域包括ケア病床（病床利用率）	1日平均患者数	18人(85.7%)
		・療養病床（病床利用率）	1日平均患者数	30人(66.7%)
		・三役によるベッドコントロール状況の共有【新規】	実施実績	朝ミーティング時
		・レスパイト入院に係る広報活動【新規】	実施実績	ケアマネージャー等への理解促進 近隣市町村への周知拡大
(3)	収益の確保	②外来患者の確保	1日平均患者数	100人
		①入院診療単価	単価	26,453円
		・急性期病床	単価	33,822円
		・地域包括ケア病床	単価	33,180円
		・療養病床	単価	16,843円
(4)	差額病床利用の促進	②外来診療単価	単価	8,640円
		差額病床利用率（徴収率）の向上	利用（徴収）率	60.0%(90%)
(5)	請求漏れ防止対策	①レセプト精度管理の計画的実施	開催回数	合同で月1回
		②医事経営課主催の部門別勉強会の開催	開催回数	年3回以上
(6)	査定減防止対策	①査定率目標値の設定	査定率	0.2%以下
		②委託業者と査定内容検討会の実施	開催回数	毎月ミーティングと兼ねて開催
(7)	適正な未収金管理	①医事経営課と看護部門の連携による未収金発生防止	個人未収金	対前年度比△1.5%
		②過年度未収金高額滞納者との緊密な連絡、相談	残高	
(8)	収支計画と進行管理	①進捗状況の把握	会議資料	毎月報告
		②全職員に情報の提供と共有	提出状況	毎月報告
		③確実な加算算定に向けた看護師長会、医事経営課との意見交換（1回/四半期）	算定実績	算定件数増
2 経費の節減				
(1)	効率的な費用管理 患者数とリンクした超過勤務時間数となること。ただし、X線・検査は救急対応が主であり、一概には言えない。	①超過勤務手当の縮減	超過時間数	R6年度実績の10%縮減
		・看護		R6年度の実績の10%縮減
		・医療技術員 ・事務員		日々の業務を見据えた合理的な業務遂行
(2)	材料費の節減	②ノー残業デー及び定時退庁日の設定	各部門ごとに設定	病院全体で年2回
		①薬品の適正管理		
		・採用薬剤品目数の目標設定（一増一減）	品目数	654
		・後発医薬品の導入推進	購入数量割合	95%以上
		②診療材料費の節減		
		・診療材料検討委員会の定期開催	開催実績	四半期毎
・対医業収益比率目標値の設定（税込）	対医業収益比	4.5%以下の維持		
・原価意識の醸成（診療材料研修会の開催）	開催実績	年1回以上		
(3)	エネルギー消費量の縮減	①環境管理マネジメントの運用管理	※県のEcoMネ目標に準ずる。	
		・A重油	使用量	平成30年度使用実績の1.47%縮減 (照明LED化未整備分の推進)
		・電気	使用量	
		・ガス	使用量	
		・水道	使用量	
		②一般ゴミ減量化の取り組み（リサイクル除き）	排出量	
③一般廃棄物リサイクル率の推進	リサイクル率	平成30年度の率を上回る		

二戸地域県立病院の業務状況等

(運営協議会資料)

目 次

1 機能及び職員数の状況・・・・・・・・・・・・・ 1	4 救急患者の状況・・・・・・・・・・・・・ 6
(1) 診療科及び医師の状況	(1) 救急患者取り扱い状況
(2) 基本的機能等	(2) 管内救急隊の患者搬送状況
(3) 部門別常勤職員数	
2 患者数等の状況・・・・・・・・・・・・・ 2～4	5 手術及び分娩の状況・・・・・・・・・・・・・ 7
(1) 診療科別1日平均患者数	(1) 手術の状況
(2) 1日平均入院患者数の推移	(2) 分娩の状況
(3) 病床利用率の推移	
(4) 平均在院日数の推移(一般病床)	6 診療応援等の状況・・・・・・・・・・・・・ 8～9
(5) 1日平均外来患者数の推移	(1) 医師の診療応援の状況
	(2) 医師以外の業務応援の状況
3 経営収支の推移・・・・・・・・・・・・・ 5	7 病院別患者サービス一覧・・・・・・・・・・・・・ 10

1 機能及び職員数の状況

(1) 診療科及び医師の状況 (令和7年11月1日現在)

病院名	内科・消化器内科	呼吸器内科	循環器内科	脳神経内科	血液内科	精神科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	リハビリテーション科	歯科	研修医	計
二戸	4	非(医大)	4	3	非(医大)	非(一戸)	2	3	2	2	非(医大)	3	5	0	非(医大)	2	2	兼		4	36
九戸センター	1		非(二戸)	非(二戸)		非(一戸)		非(一戸)	非(二戸)	非(二戸)											1
一戸	2			非(二戸)		8(うち臨時2)		非(嘱託)	非(医大)		非(医大)				非(医大)	非(二戸)		兼	非(医大)	2	12
軽米	4		非(二戸)	非(二戸)		非(一戸)	1非常勤	2	非(八戸日赤)					非(医大)		非(二戸)		兼			6
計	9	0	4	3	0	9	2	5	2	2	0	3	5	0	0	2	2	0	0	6	55

* 標榜している診療科欄に記載している「数字」は常勤医師数、「非」は非常勤医師体制、「兼」は他診療科医師の兼務を表す。

(2) 基本的機能等 (令和7年11月1日現在)

病院名	基本的な役割・機能	病床数(床) (稼働)						救急医療			特殊診療機能・医療器械等									
		一般	療養	結核	精神	感染	計	救急告示	二次輪番	精神	臨床研修指定病院	地域がん診療病院	地域周産期母子医療センター	地域災害拠点病院	外来化学療法	人工透析	CT	MRI	リニアック	血管撮影装置
二戸	圏域の基幹的な医療	225	0	5	0	0	230	○	○		○	○	○	○	○	2	○	○	○	○
九戸センター	地域のプライマリケア	(休止中)															○			
一戸	地域の入院医療・精神医療	47			147	4	198	○		○							○	○		
軽米	地域の入院医療	53	45	0	0	0	98	○	○								○			
計		325	45	5	147	4	526	3	2	1	1	1	1	1	2	4	2	1	1	

* 人工透析欄は装置の台数。

(3) 部門別職員数 (令和7年11月1日現在)

	医師	薬剤部門	放射線部門	検査部門	看護部門				臨床工学	視能訓練	リハビリ部門			医療社会	事務部門	栄養管理部門		精神作業療法	生活指導	臨床心理	医療安全管理	医療クラーク	その他部門	計
					看護師	准看護師	その他	計			理学療法	作業療法	言語聴覚			管理栄養士	調理師							
二戸	36	12	13.75	13.58	179.27	6.80	31.10	217.17	4	2	10.77	4	4	3	31.94	3	14.95			0.15	1	24	1.14	396.45
九戸センター	1		0.49	0.75	3.67		0.62	4.29						1.00									0.77	8.30
一戸	12	5.77	3.80	3.00	123.35	1.77	20.65	145.77	0	0	1	1	0	5	15.25	2	0	5	0	2	1	5	1.75	209.34
軽米	6	3	2	3	46.12	2.00	18.06	66.18	0	0	2	1	0	0	9	2	0	0	0	0	0	4	0.00	98.18
計	55	21	20.04	20.33	352.41	10.57	70.43	433.41	4	2	13.77	6	4	8	57.19	7	14.95	5	0	2.15	2	33.77	2.89	712.27

* 職員数は、正規職員及び臨時職員の合計に時間制職員を常勤換算し加えたもの。

* ボイラー技士、調理手及び作業手等は、その他部門に区分。

* 育児休業等休職者を除く。

2 患者数等の状況

(1) 診療科別1日平均患者数

【入院】(令和7年度10月末実績)

(実日数214日、単位:人、%)

病院名	内科	脳神経内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	精神科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	歯科	計	病床利用率
二戸		20		35	25		4	20	25	10		11	7	1					158	69.4
一戸	23					121													144	72.8
軽米	69							3											72	73.7
医療圏	92	20	0	35	25	121	4	23	25	10	0	11	7	1	0	0	0	0	374	72.0
県病全体	478	88	129	392	260	301	64	506	331	123	12	160	95	13	18		1	4	2,977	72.8

※ 県病全体の外科の数値には、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科及びその他(緩和ケア科)の患者数を含む。

【入院】(令和6年度実績)

(実日数365日、単位:人、%)

病院名	内科	脳神経内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	精神科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	歯科	計	病床利用率
二戸		22		32	25		6	25	24	9		10	10	2					165	72.1
一戸	21					124													144	72.9
軽米	68							4											72	73.7
医療圏	89	22	0	32	25	124	6	29	24	9	0	10	10	2	0	0	0	0	381	72.7
県病全体	453	118	134	381	269	314	69	512	317	121	11	149	108	13	17		1	6	2,994	73.1

【外来】(令和7年度10月末実績)

(実日数146日、単位:人)

病院名	内科	脳神経内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	精神科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	歯科	計
二戸	10	25	10	71	61	8	17	36	40	12	11	30	27	36	4	9			408
一戸	37	2				96	0	9	5		4				4			2	158
軽米	60					6	1	18											85
九戸センター	29					1		9											39
医療圏	136	27	10	71	61	111	18	72	45	12	15	30	27	36	8	9	0	2	690
県病全体	1,079	128	244	619	459	330	304	870	462	112	230	618	258	343	149	282	47	75	6,608

※ 県病全体の内科の数値には、心療内科の患者数を含む。

※ 県病全体の外科の数値には、形成外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科の患者数を含む。

【外来】(令和6年度実績)

(実日数243日、単位:人)

病院名	内科	脳神経内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	精神科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	歯科	計
二戸	11	25	10	74	62	8	17	37	41	12	13	31	28	46	4	8			428
一戸	38	2				96	0	11	5		5				4			2	163
軽米	62					6	1	19											88
九戸センター	30					1		9											40
医療圏	141	27	10	74	62	111	18	76	46	12	18	31	28	46	8	8	0	2	719
県病全体	1,098	149	253	628	464	333	330	922	492	116	244	625	270	356	150	274	45	75	6,826

※ 端数処理の関係上、診療科ごとの合計数と異なります。

(2) 1日平均入院患者数の推移 (単位:人)

病院名	4年度	5年度	6年度	7年度※
二戸	153	147	165	158
一戸	127	131	144	144
軽米	61	64	72	72
医療圏	341	342	381	374
県病全体	2,935	2,905	2,994	2,977

※10月末現在

(うち新入院患者数)

病院名	4年度	5年度	6年度	7年度※
二戸	9	10	10	9
一戸	2	2	2	2
軽米	1	2	2	2
医療圏	12	14	14	13
県病全体	201	196	201	201

※10月末現在

(3) 病床利用率の推移

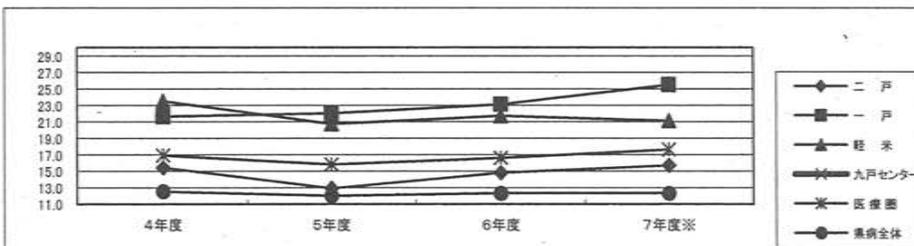
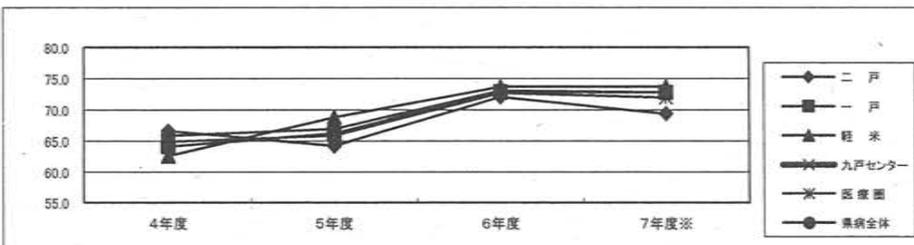
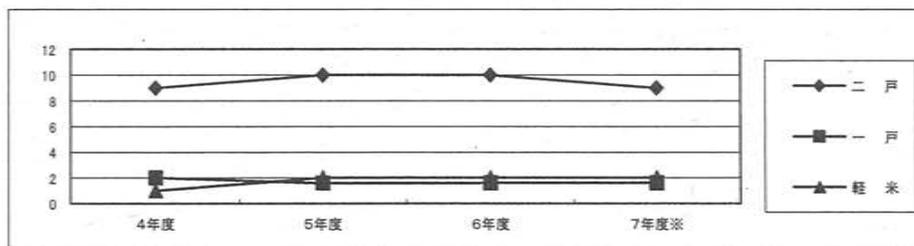
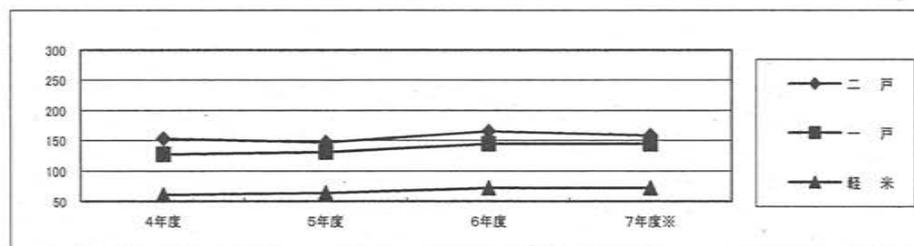
病院名	4年度	5年度	6年度	7年度※
二戸	66.6	64.2	72.1	69.4
一戸	64.1	66.2	72.9	72.8
軽米	62.6	68.8	73.7	73.7
医療圏	64.9	65.8	72.7	72.0
県病全体	65.8	66.9	73.1	72.8

※10月末現在

(4) 平均在院日数の推移(一般病床)

病院名	4年度	5年度	6年度	7年度※
二戸	15.4	12.9	14.8	15.7
一戸	21.6	22.0	23.1	25.5
軽米	23.5	20.7	21.7	21.1
医療圏	16.9	15.8	16.6	17.6
県病全体	12.5	12.0	12.3	12.3

※10月末現在

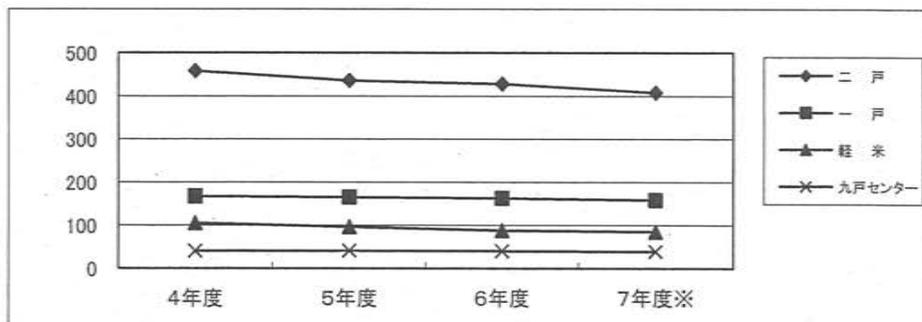


(5) 1日平均外来患者数の推移

(単位:人)

病院名	4年度	5年度	6年度	7年度※
二戸	458	436	428	408
一戸	167	165	163	158
軽米	105	96	88	85
九戸センター	40	41	40	39
医療圏	770	738	719	690
県病全体	7,073	6,953	6,826	6,608

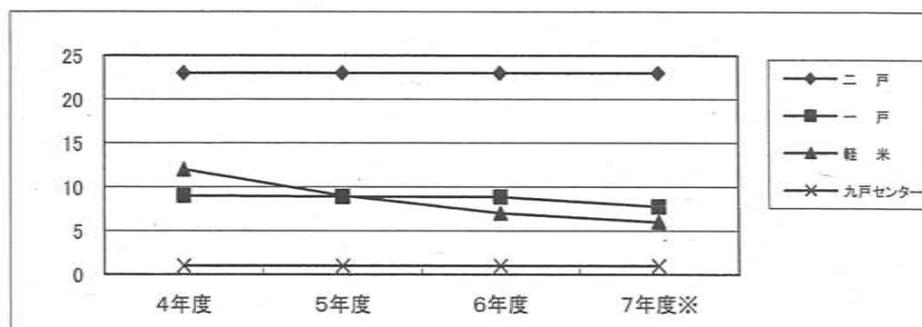
※10月末現在



(うち新外来患者数)

病院名	4年度	5年度	6年度	7年度※
二戸	23	23	23	23
一戸	9	9	9	8
軽米	12	9	7	6
九戸センター	1	1	1	1
医療圏	45	42	40	38
県病全体	570	568	540	495

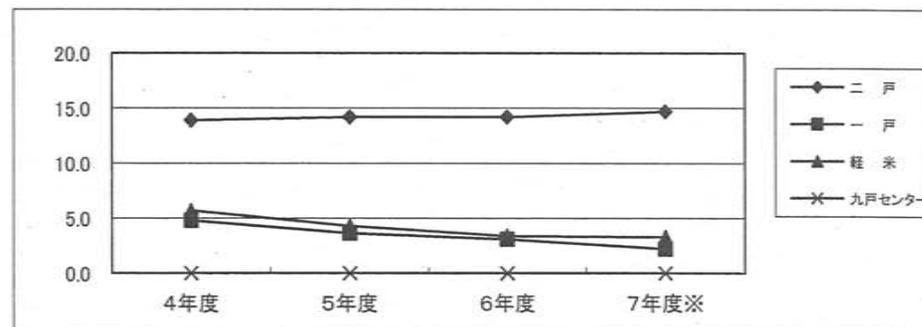
※10月末現在



(うち救急患者数)

病院名	4年度	5年度	6年度	7年度※
二戸	13.9	14.2	14.2	14.7
一戸	4.8	3.7	3.1	2.2
軽米	5.7	4.3	3.4	3.3
九戸センター	0.0	0.0	0.0	0.0
医療圏	24.4	22.2	20.7	20.2
県病全体	293.6	296.3	282.8	

※10月末現在



3 二戸地域県立病院の経営収支の推移

【令和7年度】※10月末現在

	収 益			費 用			損 益 (A-B)	うち繰入金	繰入金を 除く損益	年度末累積 損 益	【参考】経常収支	
	医業収益	医業外収益	計(A)	医業費用	医業外費用	計(B)					損 益	繰入金を 除く損益
二 戸	2,581,163	142,013	2,723,176	3,220,200	242,859	3,463,059	△ 739,883	0	△ 739,883	-	△ 729,883	△ 729,883
一 戸	804,235	59,000	863,235	1,353,019	145,800	1,498,819	△ 635,584	0	△ 635,584	-	△ 635,584	△ 635,584
軽 米	533,371	15,446	548,817	670,130	52,980	723,110	△ 174,293	0	△ 174,293	-	△ 174,293	△ 174,293
九戸センター	33,131	6,074	39,205	70,309	9,837	80,146	△ 40,941	0	△ 40,941	-	△ 40,941	△ 40,941
医療圏	3,951,900	222,533	4,174,433	5,313,658	451,476	5,765,134	△ 1,590,701	0	△ 1,590,701	-	△ 1,580,701	△ 1,580,701
県病全体	54,967,122	12,847,184	67,814,306	60,330,964	791,545	61,122,509	6,691,797	10,465,741	△ 3,773,944	-	6,691,797	△ 3,773,944

【令和6年度】

	収 益			費 用			損 益 (A-B)	うち繰入金	繰入金を 除く損益	年度末累積 損 益	【参考】経常収支	
	医業収益	医業外収益	計(A)	医業費用	医業外費用	計(B)					損 益	繰入金を 除く損益
二 戸	4,833,986	958,079	5,792,065	5,954,542	684,666	6,639,208	△ 847,143	693,291	△ 1,540,434	△ 5,989,998	△ 847,143	△ 1,540,434
一 戸	1,433,210	1,080,538	2,513,748	2,548,501	335,558	2,884,059	△ 370,311	1,049,737	△ 1,420,048	△ 19,574,434	△ 370,311	△ 1,420,048
軽 米	943,260	346,067	1,289,327	1,276,390	130,746	1,407,136	△ 117,809	332,630	△ 450,439	△ 713,526	△ 117,809	△ 450,439
九戸センター	57,997	70,428	128,425	144,978	23,450	168,428	△ 40,003	56,373	△ 96,376	△ 2,530,518	△ 40,003	△ 96,376
医療圏	7,268,453	2,455,112	9,723,565	9,924,411	1,174,420	11,098,831	△ 1,375,266	2,132,031	△ 3,507,297	△ 28,808,476	△ 1,375,266	△ 3,507,297
県病全体	96,317,681	18,694,935	115,012,616	115,880,447	6,432,248	122,312,695	△ 7,300,079	14,057,962	△ 21,358,041	△ 50,121,982	△ 7,111,160	△ 21,169,122

【令和5年度】

	収 益			費 用			損 益 (A-B)	うち繰入金	繰入金を 除く損益	年度末累積 損 益	【参考】経常収支	
	医業収益	医業外収益	計(A)	医業費用	医業外費用	計(B)					損 益	繰入金を 除く損益
二 戸	4,485,080	1,167,652	5,652,732	5,726,188	653,758	6,379,946	△ 727,214	917,228	△ 1,644,442	△ 5,142,855	△ 727,214	△ 1,644,442
一 戸	1,364,657	1,101,762	2,466,419	2,545,127	357,471	2,902,598	△ 436,179	1,041,550	△ 1,477,729	△ 19,204,123	△ 436,179	△ 1,477,729
軽 米	879,478	305,744	1,185,222	1,216,597	119,663	1,336,260	△ 151,038	279,491	△ 430,529	△ 595,717	△ 151,038	△ 430,529
九戸センター	59,354	73,726	133,080	148,466	24,333	172,799	△ 39,719	59,353	△ 99,072	△ 2,490,515	△ 39,719	△ 99,072
医療圏	6,788,569	2,648,884	9,437,453	9,636,378	1,155,225	10,791,603	△ 1,354,150	2,297,622	△ 3,651,772	△ 27,433,210	△ 1,354,150	△ 3,651,772
県病全体	94,397,343	22,342,646	116,739,989	113,497,321	6,779,782	120,277,103	△ 3,537,114	18,592,185	△ 22,129,299	△ 42,821,903	△ 3,261,017	△ 21,853,202

※ 特別利益及び特別損失については、それぞれ医業外収益及び医業外費用に計上していること。

4 救急患者の状況

(1) 救急患者取り扱い状況

【令和7年度10月までの実績】

(単位:人)

病院名	救急車			その他			合計			1日平均	うち入院数	入院率(%)
	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計			
二戸	403	635	1,038	502	1,612	2,114	905	2,247	3,152	14.7	874	27.7
九戸センター			0			0	0	0	0	0.0	0	0.0
一戸	49	37	86	109	246	355	158	283	441	2.1	109	24.7
軽米	57	87	144	263	306	569	320	393	713	3.3	146	20.5
計	509	759	1,268	874	2,164	3,038	1,383	2,923	4,306	20.1	1,129	26.2

【令和6年度実績】

(単位:人)

病院名	救急車			その他			合計			1日平均	うち入院数	入院率(%)
	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計			
二戸	687	1,104	1,791	666	2,717	3,383	1,353	3,821	5,174	14.2	1,537	29.7
九戸センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
一戸	63	118	181	115	676	791	178	794	972	2.7	194	20.0
軽米	89	134	223	397	621	1,018	486	755	1,241	3.4	225	18.1
計	839	1,356	2,195	1,178	4,014	5,192	2,017	5,370	7,387	20.2	1,956	26.5

(2) 管内救急隊の患者搬送状況

【令和7年1月～10月】

(単位:人)

署・分署名	救急告示病院									その他の医療機関				合計
	管内				管外					計	管内		計	
	二戸病院	一戸病院	軽米病院	計	岩手医大	中央病院	その他	計	九戸センター		その他	管外		
二戸消防署	631	25	9	665	17	5	18	40	705	0	0	10	10	715
一戸分署	415	96	0	511	3	4	10	17	528	0	1	2	3	531
軽米分署	136	3	163	302	1	1	17	19	321	0	1	3	4	325
九戸分署	198	7	31	236	0	0	4	4	240	0	0	1	1	241
浄法寺分署	177	10	1	188	3	0	3	6	194	0	2	0	2	196
医療圏	1,557	141	204	1,902	24	10	52	86	1,988	0	4	16	20	2,008

【令和6年1月～12月】

(単位:人)

署・分署名	救急告示病院									その他の医療機関				合計
	管内				管外					計	管内		計	
	二戸病院	一戸病院	軽米病院	計	岩手医大	中央病院	その他	計	九戸センター		その他	管外		
二戸消防署	734	35	11	780	17	4	36	57	837	0	5	1	6	843
一戸分署	387	141	3	531	5	3	10	18	549	0	4	1	5	554
軽米分署	185	5	189	379	2	0	24	26	405	0	1	2	3	408
九戸分署	194	5	51	250	0	0	6	6	256	0	0	2	2	258
浄法寺分署	203	9	0	212	1	0	3	4	216	0	1	1	2	218
医療圏	1,703	195	254	2,152	25	7	79	111	2,263	0	11	7	18	2,281

5 手術及び分娩の状況

(1) 手術の状況 (手術室実施分)

(令和7年10月末実績)

(単位:件)

病院名	外科	泌尿器科	産婦人科	整形外科	脳神経外科	眼科	循環器科	その他	計	1日平均件数
二戸	160	34	76	133	23	90	25	0	541	2.5
一戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
軽米	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
九戸センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	160	34	76	133	23	90	25	0	541	

(令和6年度実績)

病院名	外科	泌尿器科	産婦人科	整形外科	脳神経外科	眼科	循環器科	その他	計	1日平均件数
二戸	321	53	140	267	52	332	25	0	1,190	3.3
一戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
軽米	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
九戸センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	321	53	140	267	52	332	25	0	1,190	

(2) 分娩の状況

(令和7年10月末実績)

(単位:件)

病院名	時間内	時間外	休日 深夜	計	1日平均件数
二戸	48	11	29	88	0.4

(令和6年度実績)

病院名	時間内	時間外	休日 深夜	計	1日平均件数
二戸	86	36	63	185	0.5

6 二戸地域県立病院の診療応援等の状況

(1) 医師の診療応援の状況

(令和7年11月1日現在)

病院名		応援を受けている病院				
		二戸	九戸地域診療センター	一戸	軽米	その他
応援している病院	二戸		循環器科/第1・3・5水曜日 整形外科/隔週金曜日 脳神経外科/第1・3・5月曜日、隔週金曜日 脳神経内科/毎週金曜日	放射線科/第1木曜日 脳神経内科/毎週水・木曜日 宿直業務/不定期木曜日 脳神経外科/毎週木曜日 内科/毎週火木曜日	循環器内科/毎週月曜日 放射線科/第3木曜日 脳神経内科/毎週月曜日	(遠野病院) 産婦人科/第3水曜日 (久慈病院) 脳神経内科/毎週水曜日 産婦人科/隔週火(待機)・水曜日 (浄法寺診療所) 内科/毎週木曜日、第3金曜日
	九戸地域診療センター					
	一戸	精神科/毎週水曜日	外科/毎週火曜日 精神科/第1・3金曜日		外科/毎週木曜日 精神科/毎週木曜日	精神科/毎週木曜日
	軽米		小児科/毎週木曜日※ ※現在休診中			(八戸赤十字病院) 消化器内科/毎週火午後 外科/毎週月曜午後 (種市病院) 内科・外科/毎週木曜日当直
	その他			(中央病院) 血液内科/毎週木曜日 精神科/隔週金曜日 シニアレジデント/ 毎週土曜日 日直・宿直	(八戸赤十字) 整形外科/第1・第3木曜日	

(2) 医師以外の業務応援の状況

(令和7年11月1日現在)

病院名		応援を受けている病院				
		二戸	九戸地域診療センター	一戸	軽米	その他
応援している病院	二戸		薬剤師/月1回程度 診療放射線技師/休暇取得時 臨床検査技師/休暇取得時 およびそれ以外の業務応援随時 管理栄養士/第2・4水曜日 感染管理認定看護師/四半期1回 臨床工学技士・医療安全専門員 /年1回・必要に応じ	診療放射線技師/平日毎日(兼務発令) 週休日の日勤帯待機 言語聴覚士/第3火曜日 臨床工学技士/第2木曜日 感染管理認定看護師/第2月曜日	診療放射線技師/月1回程度、 月10回待機当番、休暇育休取得時 臨床検査技師/月1回土日待機当番 理学療法士又は作業療法士/第1・3・5火曜日 言語聴覚士/第2火曜日 臨床工学技士/月2回程度 医療社会事業士/第1・2水曜、3・4・5火曜 医療安全管理専門員/第2火曜日 薬剤師/必要に応じ 感染管理認定看護師/第1火曜日 皮膚排泄ケア認定看護師/第3木曜日	(久慈病院) 視能訓練士/週3回
	九戸地域診療センター					
	一戸	診療放射線技師/月3～5回 公認心理士/月2回月曜日 薬剤師/月1～3回			診療放射線技師/必要に応じ 薬剤師/必要に応じ	(中央病院) 管理栄養士/月火
	軽米	診療放射線技師/月1回		診療放射線技師/必要に応じ		
	その他	(中部病院) 診療放射線技師/月1回2日間 (中央病院) 診療放射線技師/月1回			(久慈病院) 診療放射線技師/必要時	

7 病院別患者サービス一覧

病院名	待ち時間短縮に関すること													
	診療予約	院外処方	午後診療			システム導入関係								
			標榜診療科	標榜外診療科	専門	加算等作成	再来受付機	処方LAN	診察券自動作成	自動入金機	薬袋作成機	再来予約	口座振替	クレジットカード払
二戸	全科	○	精神科	腎・高血圧内科 心療内科	禁煙外来・緩和ケア外来・糖尿 病外来・肝臓外来	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一戸	全科	○	皮膚科		循環器科	○	○	○	○	○	○	○	○	○
軽米	内科 小児科	○	精神科	循環器内科	糖尿病外来	○		○	○		○	○	○	○
九戸地域診療センター		○	精神科	小児科(休診中)		○		○	○			○	○	○

病院名	待ち時間の緩和に関すること							
	総合案内	カルテ搬送		診察順番券交付		診察順番表示装置		投薬順番表示装置
		科数	時間	科数	時間	システム	システム その他	
二戸	○	全科	終日	全科	終日	○	○	
一戸		全科	終日	全科	終日		○	○
軽米		全科	終日	4科	午前 午後(診療応援)			掲示
九戸地域診療センター		全科	8:30前とバス利用者	全科	午前(全科) 午後(精神・小児)			掲示

病院名	患者サービス向上のための取り組み			
	ボランティアの受け入れ状況	地域懇談会等の開催状況	地域住民向けの講演会 健康相談会等の開催状況	その他
二戸	・外来案内 ・絵画の展示	モニター懇談会 ・参加者:モニター委員、病院職員 ※R2より新型コロナウイルス感染症の 流行により中止	・ふれあい看護体験(R7.5月) ・中学校・高校への出前講座 ・二戸病院祭の開催(R7.B)	◇患者サポートコーナー設置(H28.9.1~) ◇がんサロン開設(H28.7.30~) 毎月第3水曜日相談員配置(11:00~14:30) ◇広報誌「ざしきわらし」の発行 ◇病院ホームページによる情報提供 ◇図書室の開放及び図書コーナーの設置 ◇待合ホールへのクリスマス飾りの展示 ◇入院患者用フリーWiFiの提供
一戸	・鉢植えの展示	地域懇談会 ※一戸町関係者等と病院職員により毎年 開催していたが、令和2年度より未開 催、令和6年度より一戸町在宅医療セ ミナーと合わせ11月に開催	・一戸町主催セミナー等への講師派遣 ・職場体験受け入れ北桜高校(1名)一 戸中学校(5名)	◇院内ホスピタルストリートに「山どり文庫」、「ストリートピアノ」を設置し、来院者が自由に読書や演奏ができる環 境を整備している。 ◇入院患者用フリーWiFiの提供 ◇広報誌「大樹」の発行 ◇病院ホームページによる情報提供 ◇院内及び駐車場へ七夕飾り、クリスマス飾り等の展示
軽米	・構内環境整備 7月 (樹木の剪定、草取り等) 軽米町議会議員、シルバー人材センター 軽米町職員 約50人 ・生花の展示(毎週交換・個人) ・褥瘡用コーナーラップ作成(随時) ・外来患者案内(随時)	軽米町議会との意見交換会 (R7.1月開催予定)	◇介護教室(年2回)、生活習慣病 教室(年6回)、小児健康教室(通 称:ニコニコ教室年4回) ◇県北10高校への生活習慣病講話 ◇広報かるまい「軽米病院だより」 (2か月毎、平成21年10月号~) ◇看護の日イベント(R7.5) ポスター掲示による健康指導	◇正面玄関出入口脇にくろぎコーナー(畳敷き)設置、診察やバスの待ち時間に利用(テレビ・冷水 機設置)、内科・外科・中央処置室廊下・安静室にテレビ設置 ◇待合ホールに糖尿病食事療法フードモデル(朝・昼・夕・間食)をショーケースにて展示、また、糖分 を多く含む飲み物の見本を糖分換算した砂糖と一緒にカロリー表示して展示 ◇世界糖尿病デーイベントの実施(ポスター掲示による健康指導) ◇栄養の日(R7年11月)行事食、メッセージカード付 ◇食材の日(地元食材を使用)、行事食(年35回)、特別メニュー食(週4回)、おやつ、ワゴンサービス (月1回)、誕生日祝い講実施 ◇その他:七夕会、クリスマス期間のイルミネーション飾り実施
九戸地域診療センター	構内環境美化 (村保健推進員、折爪荘職員)			◇診療センターになって以来テイルームとして活用してきた機能訓練室を改修整備し、診察後のバス 待ち時間等、休憩場所として開放している。 ◇外来待合に図書コーナーを設置